

## JASの新規格、認証制度で外国切り花に対抗

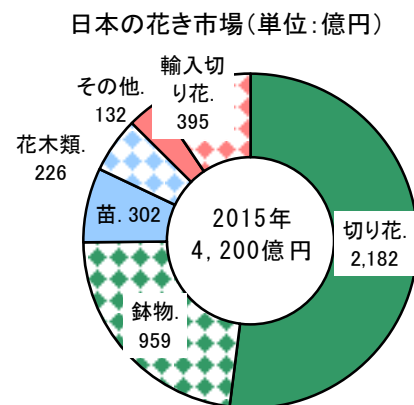
### ◆ JAS法改正を契機に制定される切り花の新規格と新たに始まる認証制度

切り花の日持ち生産管理の規格が制定され、2018年4月から同規格に基づく認証制度が始まる。これは農林物資の規格化等に関する法律（通称JAS法）が17年6月に改正され観賞用植物や魚、農林物資の試験方法や取り扱い方法などに関する多様な規格を制定できるようになったことで可能になった。

この認証制度では、国産切り花の日持ち生産管理として、栽培から採花、出荷までの除草、害虫駆除、水揚げ、生産時や配送時の温度管理などでチェックする項目を設定し、チェックを合格したものだけをJAS規格として認証する。従来、切り花の日持ち生産管理は生産者や業界団体が個別に対応しており、鮮度や日持ちの良さを保証する公的規格がなかった。法改正を契機に生産者や業界団体が協力して規格を制定し、認証を行うことになった。

### ◆ 国内切り花農家の輸入切り花への対抗策、国産切り花の販売量増加を目指す

15年の日本の花き市場は4,200億円と、米の生産額1.5兆円の3割弱の規模がある。その花き市場の5割強を国産切り花が占めているが、近年、輸入品が増加している。02年に189億円だった切り花輸入額は16年に426億円となった。その主要な輸入切り花は、コロンビアのカーネーション、マレーシアの菊、中国の菊、カーネーション、ケニアのバラなどである。こ



出所：㈱太田花き花の生活研究所

この輸入切り花の攻勢に国内の切り花生産農家は何らかの対策をとる必要に迫られていた。今回の認証制度は輸入切り花への対策としての側面も持っている。

国産切り花農家は認証制度で認証された切り花の鮮度や日持ちのよさを消費者にアピールして販売量を増やすことが当面の目標である。そして、認証制度が浸透し、国産切り花の品質の高さが海外にも認知されることで輸出が将来増えることにも期待がかかっている。

【藤井和則】